農研機構
NARO 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

# 農業者大学校広報誌「のうしゃだい」 第2号



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2020-12-04<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.24514/00004568 |

農業者大学校広報誌

# のうしゃだい

2

2010/3

## 派遣実習訪問先レポート

先進経営体等派遣実習訪問先レポート
研究チーム派遣実習訪問先レポート

## 校内トピックス

第41期生が思い出を胸に卒業
つくばで初の豊饒祭 多摩の伝統脈々と など

## 学生紹介

前島　ひろ美さん（第41期生）
前濱　利啓　さん（第42期生）

## 研究開発最前線

九州沖縄農業研究センター

## 卒業生紹介

岡田　徹さん（埼玉県 さいたま市・同窓会副会長）

農業者大学校本館 ホワイエ

Training visit reports

# 先進経営体等 派遣実習訪問先レポート

一年次の七月から十月までの四ヶ月間、全国各地で先進経営を展開している農家・農業法人等のもとで農業実習を行います。この実習を通じて農業・農村感覚を体験するとともに、全国の先進的な農業者の生きた農業経営や価値観を学ぶことを目的としています。二十一年度の先進経営体等派遣実習の中の二つの派遣先の学生の様子を二人の教育指導専門職がレポートします。

## 自然と人が交わる 金沢の有名ぶどう園で学ぶ

（株式会社ぶどうの木・石川県）

末永 聡
教育指導専門職

八月五日に金沢市の「株式会社ぶどうの木」で実習をしている古屋さんの巡回指導に行きました。株式会社ぶどうの木は金沢では有名なぶどう園、レストラン、洋菓子製造販売等を行っている会社で、古屋さんは主にぶどう園でお世話になっています。株式会社ぶどうの木には私もこれまで何度かプライベートで訪れたことがあります。

代表取締役の本昌康さんは地元では有名な方で、私もお顔は存じ上げていたもののお会いしたのは今回が初めてでした。

古屋さんは大変歓迎されている様子で、ぶどう園場長の白井睦さんからも信頼されているようでした。本さんは古屋さんに対して、経験と歴史に学ぶことの重要性を自らの体験談から話してくれました。新聞や本を読むことがなぜ大事なんだろう、そしてそれがビジネスにどうつながっていくんだろう、そんなことを本さんはとても分かりやすく説明してくれました。

（すえなが　さとし）

↑左から白井さん、学生の古屋さん

## 北海道のおいしい みどりの恵みと共に

（ＩＬＯＶＥファーム日胆・北海道）

伊藤 秀一
教育指導専門職

八月二十日に、北海道むかわ町の「ＩＬＯＶＥファーム日胆」で実習中の中澤さんを訪問しました。千歳空港からレンタカーで向かう際、夏休み中ということもあり手続きに思いのほか手間取り、到着予定時刻を一時間以上遅れてしまいました。このため、中澤さんは作業を始めてしまっていたので、指導に当たっている及川さんにお話を伺いました。

ＩＬＯＶＥファーム日胆はデルモンテと契約してブロッコリーを専門に栽培しています。今年は天候不順で八月になっても梅雨が続いているような状態だったそうで、訪問した日も小雨がぱらついて本当に夏なのだろうかと思わせるような寒々とした天気でした。とても広い敷地内に加工場や事務所、倉庫、従業員宿舎などが点在しています。中澤さんは入口近くの加工場で作業していました。忙しそうだったのでゆっくりと話が聞けなかったのですが、楽しく実習生活を送っているそうです。

写真を撮ったのですが、動きが速すぎてどれもぶれてしまいました。画面から彼の気合いが感じられると思います。

（いとう　しゅういち）

→学生の中澤さん・ブロッコリーの調整作業中

## 先進経営体等派遣実習報告会

四ヶ月間の実習先での様子について発表を行いました。非農家出身の学生からは、「農作業のスピードが早いのでついて行くのが大変」、「勉強不足を痛感した」、農家出身の学生からは「人の使い方が難しい」、「生産も重要だが営業はもっと重要」という感想が多く出されました。「逃げ出した豚を必死に追いかけて捕まえた」など色々なエピソードも紹介され、おおいに盛り上がりました。

↑先進経営体等派遣実習報告会のようす

# 研究チーム派遣実習訪問先レポート

農業関係の試験研究機関が集中しているつくば農林研究団地に学校があるという絶好の立地条件を活かして、二年次に研究チーム派遣実習を実施しています。この実習は、学生の将来志向する作物や関心のある分野（土壌、病害虫、経営、マーケティング、ITなど）に応じて、農研機構の各研究所（中央農業総合研究センター、作物研究所、果樹研究所、花き研究所、野菜茶業研究所、畜産草地研究所など）の研究チームに派遣し、研究者に身近に接する中から問題点をつかみ、それを解決する能力を身につけてもらうことを目的としています。平成二十一年度の研究チーム派遣実習から、ある日の2チームの実習をレポートします。

（うえの　ただよし）

上野　忠義
教育指導専門職

## 土壌診断の手間と努力
## 適切な施肥の理解を深める

中央農業総合研究センター
資源循環・溶脱低減研究チーム

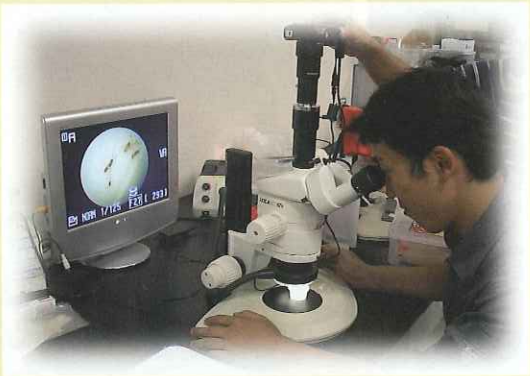
資源循環・溶脱低減研究チーム（中央農研）では、家畜ふん堆肥などの有機性資源を適切に利用した作物生産を推進するために、土壌中の窒素の溶脱低減など環境保全に配慮した土壌管理技術の開発を行っています。写真は、水田圃場と畑圃場から土壌をサンプリングして三十℃で四週間培養し、土壌中の可給態窒素を測定しているところです。このように正確な土壌診断には大変な手間と時間がかかりますが、一日で分析できる簡易な診断法も開発されており、精度の比較も行っています。このチームでの実習を通じて、環境に配慮した適切な施肥について理解が深まりました。

→学生の横尾さん（左）・高内さん（右）土壌サンプル中の窒素測定のようす

## 害虫防除の新技術を学び
## 害虫管理の理解を深める

中央農業総合研究センター
総合的害虫管理研究チーム

総合的害虫管理研究チーム（中央農研）では、化学農薬の使用をできるだけ減らした栽培を実現するために、殺虫剤に代わる害虫の防除手段として、天敵などを活用して害虫の発生を抑える技術の開発を行っています。写真は、水田圃場で水稲に付いていた虫を網で捕集して来たものを、虫の種類別に分類して仕分けする作業をしているところです。体長一㎜以下の小さな寄生蜂などは肉眼ではなかなか判別しづらく、時々顕微鏡を覗きながら分類しています。このチームでの実習を通じて、害虫の生態や天敵利用など多様な手法を取り入れた害虫管理について理解が深まりました。



→学生の畑辺さん
顕微鏡を使っての害虫等の分別作業

## 研究チーム派遣実習報告会

十二月十一日には、実習成果の報告会を開催しました。学生は、事前に報告書と発表用スライド（パワーポイント）を作り、発表に臨みました。一人七分間という短い発表でしたが、学生が研究チームでの実習を通じて多くのことを経験し、知識を得たことがうかがえ、有意義な報告会でした。学生からは、ご指導いただいた研究チームの方々への感謝の言葉と、「この実習を通じて研究所の方々と人脈ができたので、卒業後に有効に活用したい」という声が多く聞かれました。

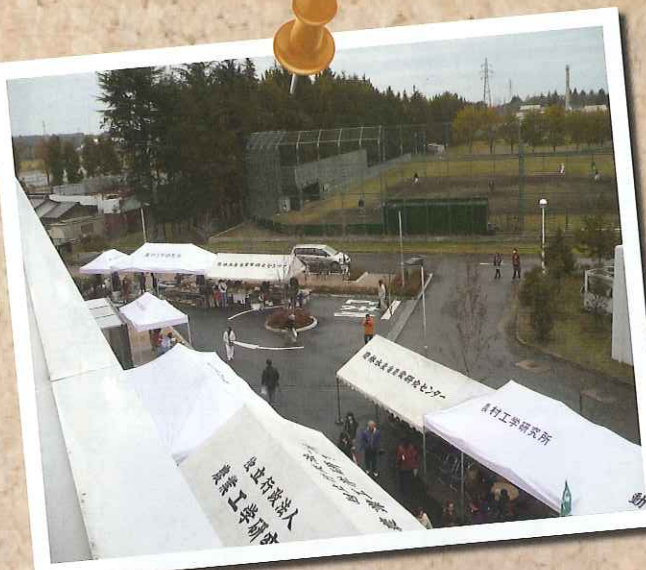
↑研究チーム派遣実習報告会のようす

## つくばで初の豊饒祭 多摩の伝統脈々と

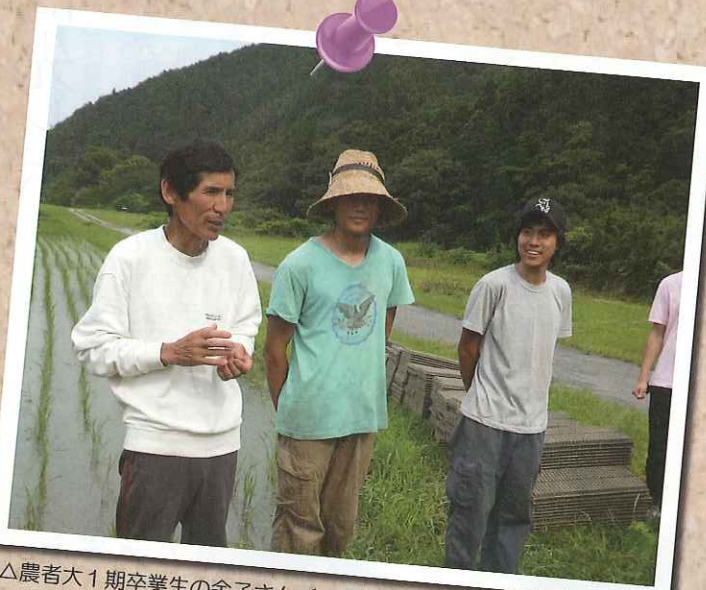
２年生が中心となって進めてきたつくばで初めての豊饒祭（11/22）は、農林団地周辺の親子連れなど７００名程の参加者があり、大変盛況でした。

当日は３連休の中日で、今にも雨が降りそうな天候。そんな中で１・２年生が協力してテントを張ったり、出店の準備。卒業生自慢の農産物の販売では、最初は不慣れで小さな声しか出せなかったのが、後半では大きな声で一生懸命に販売していました。

用意していた食材が午前中で無くなるなど“予想外”の盛況に大あわてで午後の分を用意を用意するなどハプニングもありましたが、みんなの力で成し遂げたことは、学生にとって大変貴重な経験になったと思います。



△ 豊饒祭のようす



△農者大１期卒業生の金子さん（一番左）

## NHKの人気番組に 卒業生が出演しました

NHKの人気番組プロフェッショナル～仕事の流儀～（１月５日放映）に、本校第１期卒業生の金子美登さんが出演され、農業者大学校の学生も出演？していました。

金子さんは、有機農業の第一人者で、本校で有機農業の講義も担当してもらっています。昨年６月に１年生が金子さんの経営する霜里農場を見学していた時に、丁度プロフェッショナルのスタッフの方が取材に来られており、映像はそのときのもの。

現在では、有機農業は消費者にも受け入れられ、信頼を得ています。ここまでもってくるのに人一倍苦労された金子さんは、農者大の星です。

## 第41期生が 思い出を胸に卒業

つくばでの農者大に初めて入学してきた４１期生の卒業式が３月５日に挙行されました。つくばでの最初の卒業生です。２年前、初めて学生に会った時のことが昨日のように思い出され感無量です。

卒業式では、公務御多忙の中、郡司農林水産副大臣に御臨席頂き、温かい励ましの祝辞を頂きました。答辞では、大沼さんが農業を営む決意を熱く語ってくれました。４１期生は、自家農業に従事するもの、農業法人で働くもの、認定就農者として就農希望地で農家研修をスタートするものなど進路はそれぞれですが、約半数を占める非農家出身の学生も含め、そのほとんどがそれぞれ農業者への道を歩み出そうとしています。１０年後、２０年後が楽しみです。頑張れ４１期生!!

△ 郡司農林水産副大臣からのご祝辞のようす

# 校内トピックス

△ 大田堯先生　講演演目「命の絆を」

## 大盛況だった同窓会関東ブロック大会

１１月７日（土）の関東ブロック大会は好天に恵まれ、浦和駅前で行った農産物販売もさいたま市民会館で行った講演会（伝説の講義と経営事例発表）も大盛況でした。その中で、９１歳という年齢を感じさせない大田堯（おおた・たかし）先生（元・都留文科大学学長）のお話は、いかに生きるかということについて深く考えさせられるものでした。大田先生は、昭和４３年の農業者大学校の設立当時から教育カリキュラムの作成や講義等で長年お世話になった先生です。お互いの違いを認め合い、命の絆（人と人との新たな関係）を築かなければならない。また、個人個人違いがあり、それぞれの持ち味があるのだから、それぞれの人が社会的に意味のある仕事ができるような出番を保障する社会を作っていかなければならない、とのことでした。

## 全員一発合格！大型特殊・けん引免許

茨城県水戸市にある農林水産研修所つくば館水戸ほ場では、主に農業に関する技術研修を受けることができます。農業者大学校の学生は、１年次に大型特殊免許、２年次にけん引免許（農耕用に限る）が取得できます。１週間の運転練習後に運転技能試験がありました。運転技術とコースをみっちり指導してもらった効果があらわれ、試験当日も、いつもどおり落ち着いて運転できているようでした。そして、緊張の合格発表・・・・農業者大学校の学生は見事に全員合格することができました。合格を聞いた瞬間、学生の間で拍手と安どのため息がもれました。卒業後はこの資格が全国各地で役立っていくことでしょう。

△ 運転練習の様子

職員紹介

# 縁の下の力持ち

## 教務課（四人）

教務課は、カリキュラムの進行管理、学生の生活指導、図書室の管理、入学試験事務、卒業生からの問い合わせの対応等、様々な仕事をしています。

本校の講義は二五〇人を超える外部講師にお願いしているため、一人ひとりの都合を聞きながら、いつ、どの講義を行うか日程を組んでいきます。講師によっては日にちや曜日・講義時間を指定される方もいますので、定められた講義を学期内に組むのは、まさに神業です。また、豊饒祭等学生主体の行事のサポートや宿泊施設の利用に当たっての生活指導等も行っています。十九歳から三十歳台までの幅広い層の学生に対応しなければならないため、学生の幅広い要望を吸収しつつ学生の個性に応じた指導が必要で、結構大変です。

教務課は教育運営がスムーズに行われるよう、裏方として大学校を支えています。

△田村学生係長（左上）梅川教務係員（右上）
滝田課長　（左下）田部教務係長（右下）

学生紹介

# 卒業後の抱負

## 前島 ひろ美 さん（第41期生）

消費者交流を積極的に行う農業者を目指しています。「食と農の架け橋」をテーマに卒業論文を書き、社会の農業に対する理解を深める必要があると感じました。消費者と接点を持ったり、外に向けて情報発信したりすることは、これまで農家はあまり得意としてこなかったかもしれません。重労働で収入が不安定など厳しい側面だけでなく、農業が持つ素晴らしい多面的機能をもっと多くの人に知ってもらいたいです。農業があるからこそ、農村の豊かな自然や美しい景観を維持することができます。人間も自然の一部として様々な生物と共生していることを消費者に伝えていきたいです。交流を通して生産者と消費者が互いを支え合う信頼関係を築くことができれば、安全で安定的な食料生産を可能にするはずです。

学生紹介

# 農者大の一年を振り返って

## 前濱 利啓 さん（第42期生）

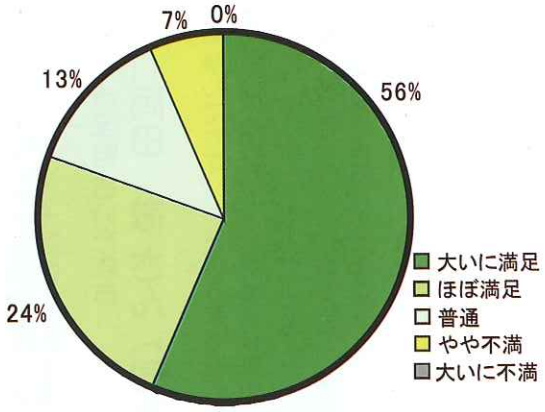
私の家は、専業農家で小さいころから親の働く姿を見てきました。そのせいか物心つくころには、私も将来農業をしたいと思うようになりました。高校卒業後の進路を決める時、この農者大を進めてもらい入学しました。

高卒の私には、授業で何を言っているかわからない時もあり、あまり授業は面白くない時もありますが、面白い授業の時は話を聞いていても、大変面白いです。

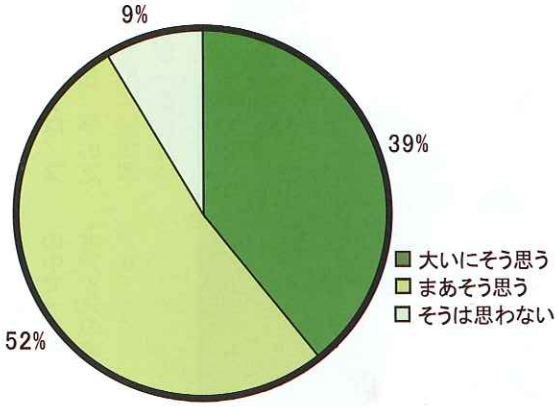
最近は仲間と遅くまで話をすることが多く生活は夜型になってきたので、授業中眠くなることもあります。生活面ではみんな良くしてくれるので年齢差があってもあまり気になりません。毎日楽しく過ごしています。もうすぐ二年生になるので、これからは身を引き締めて頑張っていきたいと思います。

## 研究チーム派遣実習アンケート結果について

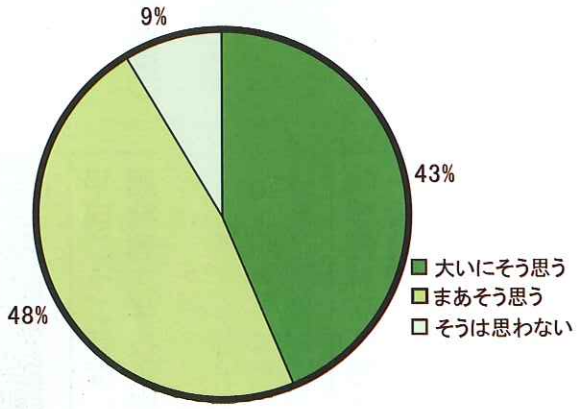
（実習内容に対して満足できたか？）




（科学的なものの見方や考え方ができるようになったか？）




（実習を通じて研究者との人脈作りができたか？）




研究チーム派遣実習はつくばに移転した農業者大学校が新たに始めた実習であり、多摩時代には行っていなかった実習です。

前期と後期と合わせて 19 研究チームで実習を受けた学生のべ 32 名について、内容に関しては８割の学生から満足、ほぼ満足というアンケート結果がでており、一方学生を受け入れた研究チームからは、非常に熱心で意欲的、真面目で教えがいがある等のコメントを頂きました。

このアンケート結果等により、この実習が学生にとっても研究チームにとっても上々のスタートであったことがわかりました。

## 研究開発最前線

農研機構の新技術を分かりやすく紹介

### 「米粉や飼料米に向く多収品種 “ミズホチカラ”を育成」

九州沖縄農業研究センター
低コスト稲育種研究九州サブチーム長　坂井　真

輸入穀物価格高騰への対策や食料自給率向上のために需要が高まっている、米粉原料用や飼料用などに向く新しい多収イネ品種「ミズホチカラ」を開発しました。「ミズホチカラ」は出穂期が「ニシホマレ」並の九州に適した熟期の品種で、耐倒伏性が強く玄米収量が一般主食用米より約２０％多収になります。試作栽培では10a 当たり 800kg ～ 900kg の多収事例も数多く報告されています。玄米の見た目の品質や米飯の食味はあまり良くないため主食用には適しませんが、米粉を製粉する時のデンプン損傷が少なく、米粉パンの膨らみが良好であるなど米粉加工適性に優れています。また多収で栽培しやすいため飼料米にも利用できます。

福岡県では、飼料用米として 21 年度から作付けが開始され、熊本県で米粉用途向けにも普及が始まっています。

卒業生紹介

# 都市化の中のオアシスを目指して

埼玉県 さいたま市
岡田 徹 さん（同窓会副会長）

農業者大学校を卒業して七年。この学校へ行ってなければ今の私はない。

卒業と同時に家業である植木、園芸農家から独立。私が経営する「美園いちごランド」は六年目のシーズンを無事に迎えた。大きな失敗が無かった事は本当にありがたかったし、家族の協力もたくさんあったおかげで、当初の面積も三倍近くに広がった。

私が常に思っている事は、スタート時の不安と緊張感、夢のための行動力を忘れないという事だ。慣れというものが一番危ないという緊張感をもって、いつもいちごの事を考えながら農業を楽しんでいる。

直売型観光農園で一番大切な事は信頼されている事にきちんと応える事だと思う。いちご一粒に思いを込めながらパック詰めして「ありがとうございました」をしっかりと言えるよう質の良いいちごを作りたい。

私の夢はさいたま市百二十万人の中で一生続けていける都市化の中のオアシスのような観光農園を作ることです。

## インフォメーション

### 平成二十二年度 農業者大学校入学式

▽日時＝平成二十二年四月八日（木）十三時三十分～十四時三十分 ▽場所＝農業者大学校講堂

### 筑波農林研究団地内 一般公開

▽日時＝平成二十二年四月十六日（金）～四月十七日（土） 十時～十六時まで▽場所＝茨城県つくば市観音台 各研究所及び食と農の科学館 ▽交通 ＝TXつくば駅から科学技術週間無料循環バス「農林研究団地」下車、TXつくば駅、JR牛久駅から関東鉄道バス「農林団地中央」下車

### 新・農業人フェアへのブース出展

◆**東京** ▽日時＝平成二十二年五月下旬及び九月下旬予定 一〇時三〇分～一六時 ▽場所＝池袋サンシャイン・ワールドインポートマート四F ◆**大阪** ▽日時＝平成二十二年七月中旬予定一〇時三〇分～一六時 ▽場所＝梅田スカイビル・タワーウエスト一〇F ◆**札幌** ▽日時＝平成二十二年十月下旬予定一〇時三〇～一七時 ▽場所＝札幌コンベンションセンター

### サイエンスカフェの開催

▽平成二十二年七月～十一月にかけて全国三カ所で開催予定。詳細はホームページでお知らせします。

### 道府県農業大学校との連携を深める取組

◆**農業者大学校サマーセミナー** ▽対象者＝道府県農業大学校の学生等 ▽日時＝平成二十二年八月三日（火）～五日（木） ▽場所＝農業者大学校等

### 農業者大学校専修科各コースのご案内

◆**先端的花き経営発展コース（後期）**＊前期、中期は実施済 ▽対象者＝花き経営（切り花、鉢物、花壇用苗ものなど）を行っている又は志向している農業者・農業法人等▽募集定員＝（お問い合せ下さい）▽受講料＝一万円▽期間＝平成二十二年七月六日（火）～八日（木）◆**水田農業技術革新コース（後期）**＊前期は実施済▽対象者＝水田農業を中心とした経営を行っている農業者、農業法人で働いている人等▽募集定員＝（お問い合せ下さい）▽受講料＝一万五千円▽期間＝平成二十二年七月二十八日（水）～三十日（金）◆**農業者教育発展コース（実践編）**▽対象者＝農業者大学校卒業生▽募集定員＝十五名程度▽受講料＝一万五千円▽期間＝平成二十二年八月十八日（水）～二十日（金）

※平成二十二年度新規開設コースについては農業者大学校ホームページでお知らせします。

### 農業者大学校オープンキャンパス

▽毎月三日間（水）（金）（日）に開催。詳細は農業者大学校ホームページをご覧下さい。


農業者大学校広報誌
**のうしゃだい** 第2号

＜発行日＞
平成22年3月31日
＜編集発行＞
独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農業者大学校 企画管理室 企画チーム
〒305-8523
茨城県つくば市観音台2-1-12
TEL 029-838-1025
http://farmers-ac.naro.affrc.go.jp/
農研機構　農業者大学校